



創造性を担保しつつも合理的でありたいと考えた 究極のレゴ建築を求めて

ベトナムでのLGS製造スタートによってコストダウンが実現し、東京の浅草でそのパーツを使った実物件が竣工した。それが本特集巻頭の写真である。東南アジアと東アジアの日本が繋がった。

写真上/LGSの構造がよく見える。中/1999年に竣工したLDKオフィスの内部。内装の仕上げは故意に構造引き出しの状態。下/LGSの構造をモデル化したもの。左ページはCarMagazine誌に掲載されていたモデルプラン。LGSの建築の可能性、創造性は大きい。



Light Gage Steel System



建築のタイムマシーンに乗っているような、新興アジア諸国のプレファブリケーション

ベトナム第二の都市、ホーチミン。ここでも、いま急激な都市化と経済成長が始まっています。従来ベトナムの人は大家族主義で、一族郎党同居していましたが、都市化とともに、核家族化が始まっています。昭和30～40年代の日本で進行していたこと、都市の急速な拡大、核家族化、都市近郊の住宅地開発、そしてプレファブリケーション建築への移行などが、今、ベトナムでは始まっているのです。

生活環境や建築の世界では、50年のタイムラグがありながらも、ITなどの情報通信手段やスマートフォンの普及に関しては、ほぼ同じレベルで生活している。それもまた実に不思議な感覚なのです。このような分野による発達度合いのグラデーションの混在が、実はグローバル化した世界のリアルな姿だと感じます。

ベトナムの人々のためのLGSシステムがスタートした

そんな中で、ベトナム/ホーチミンの都市住民のための、郊外住宅開発の材料として、LGSシステムを使用した住宅を開発するプロジェクトがスタートしました。延床面積約80㎡、2F建て、4人家族のための合理的な住まいです。その際使用するLGSパネルなどのパーツ材料は、当然ホーチミンの鉄骨工場で作ります。ベトナム人のための

ベトナム人によるLGSシステムの製作。ベトナムの人はとても几帳面なので、パネルの縦、横寸法などは、ほとんど誤差なしで作り上げます。溶接による鉄材の伸縮を考慮に入れる必要があり、実は熟練を要する仕事なのですが、何食わぬ顔でこなしてしまう。むしろベトナムにはいまでも、私たちが忘れてきている職人気質が生きているのです。LGSシステムは、案外すんなりとベトナムに受け入れられました。鉄骨加工という共通の言語を使ってコミュニケーションする技術屋同士のコミュニケーションに、お互いに高揚感を感じ合います。

しかも、LGSシステムはレゴ建築ですから、同一のLGSパネルをひたすら作る作業。物件によって、その都度製作するものが変化するわけではありません。同一のパーツが建築を構成していくわけですから、管理する側は、単一のパーツの精度を丹念にチェックすればいい。LGSシステムは、プレファブリケーションの初期段階にある国/ベトナムにとって、非常に相性のいいシステムであるということが、徐々に明らかになってきたのです。

究極のレゴ建築を求めて/東京・浅草の物件のベトナムでのパネル製作

ベトナムの人々のための住宅の構造として、具体的にLGSシステムを検討する中で、当初日本国内の製作で悩みの種だったコストパフォーマンスの問題が一気に解決の兆しを見せてきました。な

ぜならば、ベトナムにおいては、このシステムをベトナムの人たちが購入できる価格で製作しなければならないからです。それはとりもなおさず、ベトナムで製作したLGSシステムを日本に逆輸入すれば、現状での為替レートの差を利用して、日本のユーザーにシステム本来のリーズナブルな価格で提供できる！ということの意味します。この段階で、ようやく、ローテクの高性能工法であるLGSシステムの本領が発揮され、その実力がグローバルな視野の中で明らかになってきたのです。

そして、冒頭の建て方の写真にある、東京・浅草の店舗物件で、実際にベトナム製作のLGSパネルを使用して、建築が行われたのです。ホーチミンの工場で作って40フィートのコンテナに梱包し、はるばる海を越えて浅草までやってきました。入念な製品検査をしていたので、非常にスムーズに立ち上がり、LGSシステムのグローバルパッケージの実用性が見事に実証されたのです。

「部分が全体で、全体が部分」これがLGSシステムの根幹にかかわるキーコンセプトですが、シンプルな同一規格のパーツの組み合わせで様々な形状の建築をつくるシステム、すなわち「レゴ建築」であればこそ、非常に短期間での海外生産実用化が実現しました。究極のレゴ建築を目指して、LGSシステムはさらに細かい改良を重ねて進化していきます。